

1 学位授与の方針

学校教育学研究科の教育目的及び各コースの目的に掲げる育成する資質能力を身に付けさせることであり、本研究科の設定する授業科目（共通必修科目、コース専門科目、実習科目、目標設定確認科目、目標達成確認科目）を履修し、修了要件を満たすことが必要要件である。

とりわけ、本研究科の教育目的に沿った即戦力となりうる教員としての資質（学部卒業生等）、あるいはリーダー教員としての資質（現職教員等）については、目標設定・達成確認科目群において重点的に判断される。

（1）目標設定・達成科目では、1年次において、今日の教育課題を具体的に把握して本研究科での学びを明確化し、2年次において、2年間の学修の成果をまとめる。

（2）共通必修科目は、「教育課程編成・実施」、「教科等の実践的指導方法」、「生徒指導・教育相談」、「学校・学級経営」及び「学校教育と教員のあり方」の5領域から構成され、実践と理論との往還の基盤となる科目を学修する。

（3）コース専門科目は各コースにおける学びを深めるための科目を学修する。

（4）実習科目は、各コースにおける現職教員学生と一般入学学生のそれぞれについて、教育理念に沿った実践的指導力を高めるための科目を学修する。

2 教育課程編成・実施の方針

学校教育学研究科の教育目的、学位授与の方針に基づき、教員としての資質・能力を総合的に高いレベルで高め、かつ各コースが目標としている特定の資質能力を高めるために、以下のような体系的なカリキュラムを編成する。

（1）目標設定・達成確認科目

本研究科での学びを確かなものとするための科目群です。1年次において、今日の教育課題を具体的に把握して、本研究科での学びを明確化し（実践研究と実習計画の作成）、そして2年次において、2年間の学修の成果をまとめる（実践研究報告書の作成及び発表）。

（2）共通必修科目

「教育課程編成・実施」、「教科等の実践的指導方法」、「生徒指導・教育相談」、「学校・学級経営」及び「学校教育と教員のあり方」の5領域から構成される、理論と実践の往還の基盤となる科目群である。

（3）コース専門科目

各コースにおける学びを深めるための科目群で、以下の領域からなる。

①授業実践探究コース：「授業と学習評価」、「授業の指導法」、「授業の内容開発」

②子ども支援探究コース：「子ども理解」、「子ども支援」、「特別支援教育」、「生徒指導」、「教育相談」

③教育経営探究コース：「教育経営」、「学校経営」、「教育組織・環境」

（4）実習科目

各コースにおける学部卒業生等学生と現職教員等学生のそれぞれについて、教育理念に沿った実践的指導力を高めるため、以下のような科目群（通年）を配置している。

①学部卒業生等

- ・基盤教育実習：すべてのコースにて1年次に、教育実践の基本について实际的に学び、自己及び実習校の実践的な教育課題を発見することを目的とした実習を行う。
- ・学校課題探究実習：すべてのコースにて2年次に、実習校の課題に応じて、調査や授業実践その他の支援を試みるなどして、その分析や解釈と改善策の立案・実践を行うことを目的とした探究実習を行う。

②現職教員等

- ・異校種教育実習：授業実践探究コースの1年次に、連携教育の視点や方法を明らかにするような異校種（例：小学校教員であれば幼稚園や中学校など）にて探究実習を行う。
- ・関係機関実習：子ども支援探究コースと教育経営探究コースの1年次に、コースの教育目標及び教育活動と関わりの深い関係機関（例；子ども支援探究コースであれば佐賀県教育センター，教育経営探究コースであれば教育委員会など）にて探究実習を行う。
- ・学校変革試行実習：すべてのコースにて2年次に、自らの所属学校等において、それぞれの学校課題に応じた変革の試行を中心とした探究実習を行う。